

クラリネット アドバイザー



佐藤 友香

宇都宮市出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て、武蔵野音楽大学器楽学科卒業、東京ミュージック&メディアアーツ尚美ディプロマ科修了。

大学在学中に米シカゴで行われた第60回ミッド・ウエスト・クリニックに参加。

2008年より小澤征爾音楽塾オーケストラプロジェクト・オペラプロジェクト、サイトウキネンフェスティバル松本“青少年のためのオペラ”“子供のための音楽会”に参加。また、中国で行われた公演にもオーケストラメンバーとして参加。

2015年に高校時代の同級生でヴァイオリン、クラリネット、ピアノによる”Queue Croche“を結成。

その年にキッズコンサートを開催し好評を博す。

幼稚園や小、中学校での音楽鑑賞会や、ショッピングモール、ホテルでのロビー演奏など幅広く活動をしている。

これまでに、クラリネットを大野康雄、塚原健司、磯部周平、山本正治、室内楽を中川良平各氏に師事。

現在、県内における中学・高校の吹奏楽指導も多数行っている。

MCFオーケストラとちぎ所属。Queue Croche メンバー。

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

1. 普段の練習からやっておくと良い事

狭い所ばかりで練習していると、どうしても音に伸びや響きがつきにくく、ホールに出てみてビックリ！という事になってしまいます。できるだけ練習の時からホール(または広い空間)をイメージしておくようにしましょう。

そして、演奏はすぎてしまったらやり直す事ができません。ですので、その一瞬・一音を大切に演奏するよう普段から心がけてみて下さい。



大ホール イメージ図

2. 音を出す前にちょっと待って！

身体の力は抜けていますか？

息は吸う事だけを意識するのではなく、必ず一度全て吐いてから肺いっぱい深く息を吸い、一定に吐きます。楽器を鳴らす上で息は吸い方も吐き方もとても大切です。

そして演奏する前に客席やホール全体を見渡して会場を把握しましょう。

fもpも客席の一番後ろまで音を飛ばすイメージで！



3. 演奏する時は…

会場によって、音の響きや聞こえ方は異なります。

響く場所ではアーティキュレーションをはっきりしないとモコモコしてしまったり、逆に響かない場所では少し音を長めに吹いて残響を自分でつけないといけなかったりとコントロールが必要です。

どのような場所で演奏するにしても、本番を良いものにする為にはしっかりと練習をして、自分の音を聴く耳を鍛える事、そしてただ音を並べるのではなく、音楽をすること。それが最高のパフォーマンス繋がります。

4. 最後に

ステージ上では緊張してしまったり、自分が出した音の聞こえ方が普段と違うなど焦ってしまう事も多々あると思いますが、緊張で自分自身が楽しめないと他の人にもその緊張は伝わり何も出し切れずに終わってしまいます。

適度な緊張は良い事ですので、緊張しないようにするのではなく、緊張している事を受け入れ、力に変えていくようにしましょう！

そして日々の練習を信じてのびのびと音楽を楽しみましょう。

